

高校生と性

— 10年間の変化 —

○深谷和子（東京成徳大学）

○三枝恵子（埼玉県立松山高等学校）

はじめに

高校生の性意識と性行動は、この10数年で急速に加速したかのような印象を受けるが、それは高校生全体の変化なのか、それとも一部の突出した者たちの行動からの印象なのだろうか。

われわれは、これまで高校生の性意識と性行動に関していくつかの調査を行ってきたが（注：1988年「高校生と性」、1994年「高校生の性とデート」、1997年「援助交際」、いずれもベネッセ教育研究所から刊行）、その中の項目を抜き出し、また携帯電話やインターネットの普及など高校生を取り巻く環境が変化したことなどから、新たにいくつかの項目を加えて、高校生の性意識と性行動に関する4回目の調査を行い、高校生の性に関する意識と行動の現状と変化をみようとした。

調査概要

今回は今まで対象としなかった首都圏の私立高校と前回調査した地域（首都圏）の公立高校を合わせたサンプルとした。なお、過去3回の調査との比較のインターバルは、14年間から、8年間、5年間にわたっており、それぞれ調査時期を掲げた。

調査時期：2002年1月～3月

調査対象：首都圏の私立高校と公立高校の5校、1426名（男子784名、女子642名。）

結果

I. 高校生の性意識の変化を追う（深谷）

1) sexへの垣根が低くなる

今回の調査結果の中で、とりわけ目を引くのが、高校生のsexに関する許容度の増加である。「避妊さえ完全にしておけば、

（高校生が）sexしても別にかまわないと思う」についての肯定率は、1988年には女子が57.5%、男子が61.9%と6割だったが、14年後の2002年には、女子82.5%、男子87.9%と、8割を超えている（表1）。

しかも、婚前のsexは避けるべきだとする考え方は過去のものになり、表2に示したように、「結婚するまで、（結婚相手以外の）何人かと多少のsexの体験をしておいた方がよい」と考える者は、女子の場合についてすら、1988年の39.4%から2002年の75.2%（女子生徒）へ、また男子生徒も36.5%から73.2%と飛躍的な増加を示した。これまで、男性に対しては肯定率が6割強と高かったが、2002年には、8割を超えている。女性と男性についての肯定率も接近しており、広く性と結婚を分離して考える傾向が生じてきたといえるだろう。

このような性についての意識の変化は、実際のsex体験を加速すると思われ、表3に示したように、sex体験を持つ者は1988年から2002年にかけて、女子は、11.5%から20.1%へ、男子は、11.5%から17.8%へと増加している。また、「高校卒業までに、たぶんsexを体験する」と予測しているレディネスのある者を含めると、女子で38.2%、男子で36.6%となり、性体験は高校生にとってもはやタブーではなくなっている。後でみるように、実際につきあっている相手のいる者は、今回の調査で16%と想像より少なく、14年間で増加もしていないが、相手のいる者の半数は性体験を持っている様子を見ると、

高校生にとっては、意識や意見のレベルの変化にとどまらず、行為までの垣根は十分に低くなったことが考えられる。後でみるように、sexを繰り返している場合に「避妊する」者も、全体で37.5%から50.0%へと14年間に大きく増加している。これもsexへの垣根の低さと日常性を示しているのではないだろうか。

2) 学校生活や放課後の充実度の上昇

進学率の上昇は各種の統計にあるとおりだが、われわれの調査でも数値の変化は顕著である。表4にみるように、14年前は、就職が3分の1、短大や専門学校への進学予定者も2割から3割いたが、今回は未定を除くほとんどが4年制大学への進学を予定している。18歳人口の減少に伴って進学が容易になったこともあるが、それだけ高校生活をエンジョイする気持ちのゆとりが生まれたと考えても不思議はない。

表5、表6に掲げたように、「学校生活が充実している」とする者は(とても+わりとを合わせて)8年間の間に、女子で65.1%から73.9%へ、男子で55.4%から67.0%と増加している。学校生活と放課後の暮らしの充実ぶりに差がないのもおもしろい。

3) 将来のライフスタイルは共働き

男子も女子も、将来の自分のライフスタイルについての希望が大きく変化している。表7に示したように、男子で共働きを希望する者は16.9%から25.6%へと増加したが、女子は一層その傾向が高まって、31.0%から47.0%と意識の変化が顕著である。後のデータも合わせると女子の元気さが印象的である。

II. 高校生の性行動の現状 (三枝)

1) 異性とのつきあいと相手

今回の調査で、高校生が「現在異性とつきあっている」割合は、女子20.4%、男子13.0%である。過去の調査と比較すると、1988年調査では女子20.3%、男子15.0%、そして1994年の

女子は17.3%、男子13.6%と、いずれも2割前後で、14年間に大きな差はみられない(表8)。

そして表9によれば、つきあっている相手は「同級生」が最も多く、女子50.8%、男子58.8%、次いで「先輩・後輩」が女子19.1%、男子25.8%と、女子で「社会人」とつきあっている者が16.7%いるものの、多くの高校生たちにとって異性と出会うチャンスは学校生活が中心となっている(表9)。この傾向は1988年、1994年調査でも同様であった。

2) 高校生の性行動

では、高校生たちが異性とどんなつきあいをしているのか、表10からその実態をみてみよう。

1988年と比較して、最も目を引くのはキスをしたり、sexをするといった性的な関わりをもつ高校生が増加したことである。特に女子において、「キスをする」は1988年が42.9%<2002年では82.3%に、「ペッティングをする」は1988年が33.3%<2002年で56.9%、「sexする」でも1988年が30.2%<2002年では48.0%にも達し、これら性体験の変化は14年間で2倍近く上昇しており、女子の性行動がより活発化していることがわかる。もはや、高校生にとって異性とのつきあいとは、電話で話をしたり誕生日のプレゼントをすること、映画やコンサートに行ったりファミレスやバーガーショップでおしゃべりするのと同じように、キスをしたりsexをすることも含まれ、性の日常化が一層進んでいることがうかがえる。

次に、sexの体験と避妊についてみておこう。表11によれば、sexの体験が「1度だけで終わった」者は1割で14年前も同様の数値であった。一方、「現在も続いている」と答えた者は、今回の調査では女子63.3%、男子60.3%である。1988年と比較すると、「数

回で終わってしまった」と答えた者が増加し、「現在も続いている」割合が減少傾向にある。このsexを繰り返している者の避妊の現状をみると、「いつも避妊している」が女子56.3%、男子42.1%で、1988年と比較すると、女子が避妊をする割合が20ポイント以上増加している。逆に、「全くしていない」女子は1988年は40.0%も占めていたが、今回の調査では14.6%と大幅に減少している。

この14年間に、高校生の性行動の活発化と性意識に大きな変化がみられた。特に、女子高校生は豊富な性知識(避妊も含めて)のもとに性行為も避妊にも積極的となり、男性に依存的であった性から自分で自分の性をコントロールしようとする姿が浮かんでくる。

こうした女子の性行動の活発化の背景には、前述したように高校生の『女性のライフスタイルの意識』への変化があると推測できる。

なお、詳しい資料は当日配布する。

表1 避妊さえ完全ならば、sexしても別にかまわない (%)

	1988年	1994年	2002年
女子	57.5	< 76.7	< 82.5
男子	61.9	< 77.3	< 87.9

表2 結婚するまで、何人かとsexの体験をしておいた方がよい (%)

		1988年	2002年
女子の場合	女子	39.4	< 75.2
	男子	36.5	< 73.2
男子の場合	女子	69.3	< 84.5
	男子	65.7	< 83.1

表3 高校卒業までのsexの体験 (%)

		1994年	2002年
女子	すでに体験した	11.5	< 20.1
	たぶん体験する	11.8	< 18.1
	計	23.3	< 38.2
男子	すでに体験した	11.5	< 17.8
	たぶん体験する	14.0	< 18.8
	計	25.5	< 36.6

表4 希望する高校卒業後の進路 (%)

	2002年		1988年	
	女子	男子	女子	男子
1.就職(家業を継ぐを含む)	4.6	1.4	39.6	33.2
2.家の手伝い	0.0	0.3	0.2	0.4
3.専門・専修学校	6.7	2.1	16.7	18.9
4.短期大学	1.6	0.0	17.0	0.1
5.私立の4年制大学	47.7	53.4	10.7	19.1
6.国立の4年制大学	28.8	34.1	6.0	17.6
7.すぐ結婚する	0.0	0.3	1.6	0.3
8.未定	10.6	8.5	8.2	10.4

表5 学校生活の充実度 (%)

		とても	わりと	あまり充実	全然充実
		充実している	充実している	していない	していない
2002年	女子	18.9	55.0	20.3	5.8
	男子	14.7	52.3	23.4	9.5
1994年	女子	14.4	50.7	28.2	6.7
	男子	10.8	44.6	30.8	13.8

表6 放課後の生活の充実度 (%)

		とても	わりと	あまり充実	全然充実
		充実している	充実している	していない	していない
2002年	女子	16.9	55.8	22.7	4.6
	男子	21.1	47.9	26.3	4.7
1994年	女子	13.8	45.7	33.8	6.7
	男子	15.6	35.4	36.4	12.6

表7 女性のライフスタイル

(%)

	女子		男子	
	希望するライフスタイル		妻に希望するライフスタイル	
	2002年	1994年	2002年	1994年
1.専業主婦	12.9	22.8	30.6	36.2
2.子どもが産まれたら一度仕事を辞めて 適当な時期にパートなどを始める	31.4	37.8	43.8	46.9
3.ずっと家事育児と仕事の両立をさせる	47.0	> 31.0	25.6	> 16.9
4.独身で仕事に専念する	8.7	8.4	--	--

表8 現在つきあっている人がいる割合 (%)

	1988年	1994年	2002年
女子	20.3	17.3	20.4
男子	15.0	13.6	13.0

表9 現在つきあっている相手 (%)

	2002年		1988年	
	女子	男子	女子	男子
1.同級生	50.8	58.8	60.6	60.7
2.先輩・後輩	19.1	25.8	16.9	17.9
3.社会人	16.7	4.1	21.1	8.9
4.大学生	8.7	1.0	2.8	5.4
5.部活動の仲間	3.2	8.3	4.3	10.7

(複数回答)

表10 異性とのつきあい

(%)

	2002年		1988年	
	女子	男子	女子	男子
1.手紙や日記の交換をする	11.5	11.4	21.9	28.6
2.電話で話をする	91.4	81.9	88.4	79.6
3.同じ部活動や委員会に入る	4.6	15.4	12.3	12.5
4.登下校を一緒にする	33.1	49.5	40.0	29.2
5.ファミレスやバーガーショップでおしゃべり	55.4	59.8	67.2	67.3
6.誕生日にプレゼント	84.6	91.6	92.5	88.2
7.映画やコンサートに行く	64.6	80.9	60.0	78.0
8.キスをする	82.3	76.8	42.9	53.3
9.ペッティングをする	56.9	54.9	33.3	39.1
10.sexする	48.0	56.5	30.2	44.4

表11 sexの体験と避妊

(%)

	2002年		1988年		
	女子	男子	女子	男子	
sexの体験	一度だけで終わった	10.0	12.7	10.0	12.5
	数回で終わった	26.7	27.0	10.0	16.7
	現在も続いている	63.3	60.3	80.0	70.8
避妊	いつも避妊している	56.3	42.1	33.3	41.2
	危ないときだけ避妊する	29.2	47.4	26.7	29.4
	全くしていない	14.6	10.5	40.0	29.4